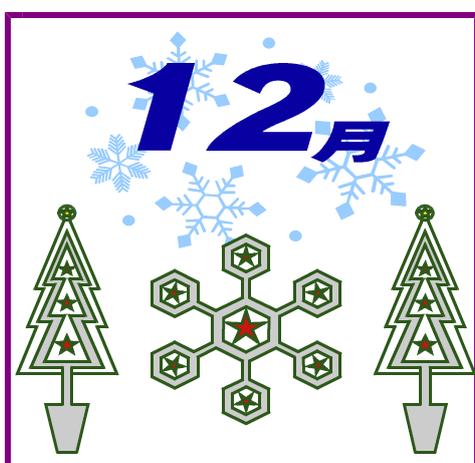


# めぐみイエス・キリスト教会

2024年12月8日(日)アドベント第二主日礼拝  
午前10時より  
週報「通算第735号」



## 2024年標題聖句

### マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌82「牧人 羊を」 p. 112

【交読文】 No.49 イザヤ書40章(抜粋) p. 918

【賛美Ⅱ】 新聖歌99「馬槽の中に」 p. 139

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「天より来られし」

【聖書朗読】 ルカの福音書7章40節～50節(新約p. 126上段)

【礼拝説教】 《罪赦されることとは?》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄与」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

### ※本日の聖書箇所(ルカの福音書7章40節～50節)

7:40 するとイエスは彼に向かって、「シモン、あなたに言いたいことがあります」と言われた。シモンは、「先生、お話してください」と言った。

7:41 「ある金貸しから、二人の人が金を借りていた。一人は五百デナリ、もう一人は五十デナリ。

7:42 彼らは返すことができなかったので、金貸しは二人とも借金を帳消しにしてやった。それでは、二人のうちのどちらが、金貸しをより多く愛するようになるでしょうか。」

7:43 シモンが「より多くを帳消しにしてもらったほうだと思います」と答えると、イエスは「あなたの判断は正しい」と言われた。

7:44 それから彼女の方を向き、シモンに言われた。「この人を見まし

たか。私があなたの家に入って来たとき、あなたは足を洗う水をくれなかったが、彼女は涙で私の足をぬらし、自分の髪の毛でぬぐってくれました。

7:45 あなたは口づけしてくれなかったが、彼女は、私が入って来たときから、私の足に口づけしてやめませんでした。

7:46 あなたは私の頭にオリーブ油を塗ってくれなかったが、彼女は、私の足に香油を塗ってくれました。

7:47 ですから、私はあなたに言います。この人は多くの罪を赦されています。彼女は多く愛したのですから。赦されることの少ない者は、愛することも少ないのです。」

7:48 そして彼女に、「あなたの罪は赦されています」と言われた。

7:49 すると、ともに食卓に着いていた人たちは、自分たちの間で言い始めた。「罪を赦すことさえするこの人は、いったいだれなのか。」

7:50 イエスは彼女に言われた。「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。」

●ポイント1. 主イエス様は、どのように語られたのか。

※箴言15章1節および箴言25章15節から「柔らかな声」(旧約p.1111)

15:1 柔らかな答えは憤りを鎮め、激しい言葉は怒りをあおる。

25:15 忍耐強く説けば、首領も納得する。柔らかな舌は骨を砕く。

●ポイント2. 「この人を見ましたか」とは？

※ヨハネの福音書19章5節「ポンテオ・ピラトの言葉から」(新約p.234)

19:5 イエスは、茨の冠と紫色の衣を着けて、出て来られた。ピラトは彼らに言った。「見よ、この人だ。」

●ポイント3. 「安心して行きなさい」とは？

※ヨハネの福音書14章27節「最後の晩餐において」(新約p.215)

14:27「私はあなたがたに平安を残します。私の平安を与えます。私は、世が与えるのと同じようには与えません。あなたがたは心を騒がせてはなりません。ひるんではなりません。」

## ◎先週のメッセージ【パリサイ人の家にて】

《あるパリサイ人(シモン)が「一緒に食事をしたい」と、主イエスを招きました。その理由として、一つは主イエスの教えと御わざとに、興味があって共に食事がしたいと言う純粋な理由であり、もう一つは、主イエスから不利な情報を聞き出し、最高議会に訴える為であったと言うことです。主はその招きを快く受け入れ、パリサイ人の家に入り、食卓に着かれました。ここで、事件が起こります。「その町に一人の罪深い女」がいたと言うのです。おそらく遊女ではないでしょうか。その女が、主イエスのことを聞いて、香油の入っていた石膏の壺を持って、食卓にやって来たのです。彼女は、主の姿と顔をすでに知っています。

そしてうしろから主イエスの足もとに近寄り、泣きながら主イエスの足を涙でぬらし、髪の毛でぬぐい、その足に口づけして香油を塗ったのです。ところで、なぜ、彼女はこのような行動に出たのでしょうか。

考えられますことは、以前、主イエスによって、彼女は何らかの病を癒されたのではないのでしょうか。そして、今こそ、その感謝を表わす時だと思い、香油を主イエスの足下に塗ったのではないのでしょうか。

さて、その有様を見た「パリサイ人シモン」は、心の中で、「この人がもし預言者だったら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知っているはずだ。この女は罪深いのだから。」とつぶやきます。

主イエスは、一瞬にして彼の心を読まれました。シモンは、主イエスを「預言者」とも見ていないことが分かります。これが人間です。人間は、自分が一番正しいと考えるのです。自己中心であり、また、すぐに人をも裁きます。パリサイ人シモンが、この女性を裁いたように。

主イエスは、彼女がどんな女であるのかをすべてご存じでした。それでもなお、主はその女を愛しておられたのです。実は、私たち一人一人こそが、この女性なのです。主イエスは、私たち一人一人の何もかも知っておられ、それでいて罪を赦され、愛して下さるのです。》

## ◎お知らせ

※12月15日の第Ⅲアドベント礼拝は、午前10時から予定通りです。